

2023 年度
学位記授与式
学長式辞

卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。我々、こども教育宝仙大学の教職員一同、ご卒業を心からお喜び申し上げます。

ご家族の皆様も、ご卒業を、心待ちにされていたことと思います。成長され、門出を迎えられます。心からお祝いを申し上げます。そして4年間のご支援、誠にありがとうございました。

コロナ禍の影響も薄れ、本年は通常の学位記授与式に戻しております。

ご来賓の皆様にも、5年ぶりにご臨席いただくことが出来ました。お忙しいところご臨席いただき、誠にありがとうございました。

本年度の卒業生は、本当に良く頑張りました。新型コロナウイルスに翻弄されながらの大学生活でしたが、素晴らしい成果を挙げてくれました。

本年度の卒業生は109名で、開学以来最も多い卒業生です。入学者のほとんどが学びを続け、幼稚園教諭1種免許は90名、保育士資格は99名と、こちらも過去最高となります。加えて、本学として初めてのオーストラリア保育留学にもチャレンジしてくれ、留学生全員が、Certificate IIIという保育者資格を取得して帰国してくれました。

これらの成果について、胸を張って良い学年だと思います。

ただ平坦な道のりではありませんでした。振りかえってみますと、あこがれていた大学生活直前に、新型コロナがまん延し、長期にわたる緊急事態宣言が続き、入学式は実施できず翌年度に2学年合同で行うことになりました。

授業もオンラインに切り替えざるを得ませんでした。実践教育を重視する本学は、それまでほとんどが対面授業で、オンライン授業を実施しておらず、我々教職員も試行錯誤でした。教職員全員がステップアップする必要があり、全員参加で、毎日オンラインでノウハウ交流、情報交換を実施しました。

結果として他大学に先駆け、授業を開始することにつながりました。その頃の判断基準は、遠い昔のことのように思いますが、「皆様の生命を守ること」と「保育者を目指すための学びを継続すること」でした。

皆さんも不安だったと思います。大学の先生や新たな同級生に会えない中、画面越しでの情報交換等で何とか乗り切ってくれました。ご家族の皆様のはげましも、大きな力になったことと思います。また専用のパソコンがなくてスマートフォンでの受講も多く、Wi-Fi 環境も整っていない方もあり、通信環境からよく中断しました。そのためパソコン、Wi-Fi ルーター、音楽授業用のキーボード等の貸出し、またコロナワクチンの接種等も実施しました。

そして、優れた保育者となるため実践教育を重視する本学では、コロナ禍においても、保育実習、教育実習に、免許資格取得者全員を派遣しました。演習等で代替せず、実習先のご支援を得ながら、希望者全員が実習を体験できました。実践力のある保育者として、巣立つことにつながったと思います。

このような大学生活で、皆さんは、予期せぬ状況に対応する柔軟性や、自己管理も身に付けました。また痛感されたのが、人と人とのつながりの大切さ、ご家族も含め、人を思いやる優しさだったと思います。

さて、時代は大きく変わろうとしています。長かったコロナのトンネルを抜け出し、デジタル化が急速に進み、オンライン会議や授業は当たり前のこととなり、場所という概念を乗り越えました。そして AI 時代となり、世の中の景気も回復しつつあります。

景気の一つの指標である株価水準も大きく上昇しました。上場株式の平均株価も、34年ぶりに過去最高を更新しました。今、長いトンネルを抜け出し、景気の先行きに明るさを示しています。

このような時期に、皆さんは社会人となり、多くの方は保育者として、子ども達の前に立たれます。皆さん、そして皆さんの前にいる子ども達が、次の時代を作り出します。コロナ禍で学んだことも活かしながら、全ての子ども達を健やかな成長に導き、人への優しさを持つ、子ども達に育てていただければと思います。そしてウクライナやパレスチナのような戦争等が起こらない、人に優しく、明るい時代を作っていただければと思います。

でも疲れたら少し休んでみて下さい。人生100年時代を生きる皆さんには、時間は充分にあり、選択肢は多種多様です。自分を再発見する充電期間も大切です。そのような際は、本学や、先生方のことも思い出し、いつでも本学を訪ねてみて下さい。大歓迎致します。

こども教育宝仙大学は、皆さんにとって永遠の母校であり、教職員一同は、永遠の応援団です。

それでは、皆さんのご健康と、益々のご活躍を、心から祈念し、学位記授与式の式辞とさせていただきます。

令和6年3月19日

こども教育宝仙大学 学長 太田誠一